

戦争が駆け足でやって来る! (その7)

軍隊は住民を守らない? 沖縄県民 4人に1人が死んだ!

6月23日は沖縄慰霊の日です。70年前沖縄は日本防衛の最前線基地として、米軍の本土攻撃を少しでも遅らせるための捨て石とされた。20万人を超す戦死者のうち、約半数に近い、じつに9万4000人余りの戦死者が、兵隊以外の一般市民や子供だった。それは子供から年寄りまで「学徒隊」や「防衛隊」などの名目で根こそぎ動員され、14歳から19歳の2000人が動員され、男子は武器・食糧の運搬や伝令、女子は負傷兵の看護や遺体埋葬などにあたり、半数が命を落とした。また日本軍は住民に沖縄語を話すことを禁止し、米軍の宣伝ビラを拾っただけでスパイとみなして処刑した。また住民が避難しているガマから追い出したり、食糧を強奪したりした。さらに米軍からの投降呼びかけにたいして、手りゅう弾を渡し集団自決に追い込んだ。

沖縄は再び三度、日本の「捨て石」にされた!

そして沖縄は、サンフランシスコ講和条約で日本の独立と引き換えに27年間米軍の軍政下に置かれた。さらに1972年沖縄は日本に返還されたが、米軍による基地の「自由使用」と有事の際には「核兵器を持ち込む」ことが密約されていた。そのため現在でも沖縄には、日本に駐留する米軍基地の73.8%が集中している。

そして今、日米両政府は圧倒的多数の住民が反対する辺野古に新たな空軍基地をつくろうとしている。それはジュゴンが泳ぐ紺碧の海を埋め立て、オスプレイが100機以上配備できる設計になっている。

今日、慰霊の日に安倍首相は翁長沖縄県知事との会談を見送った。住民の意思を無視して、米国の意向に従い、粛々と工事を進めようとしている安倍は、沖縄住民に会わせる顔がないのだろう。また国会の会期を延長して、明らかに憲法違反の「戦争法案」を秋には強行採決しようとする策動している。

憲法無視の戦争法案も辺野古も原発再稼働も、上から目線で「粛々」と強行されているのか? 今だけ、カネだけ、私だけ...そして誰も責任を取らない。今この国は歴史のターニングポイントにある。沖縄や福島との連帯を。国のための人民なのか? 人民のための国か? 今、日本は民主国家と言えるのか? 独裁国家なのか? 私たち自身がためされている...

「沖縄の風土も、本土の風土も、海も山も空気も風も、すべて国家のものではありません。そこに住んでいる人たちのものです」 菅原文太